

全国地域組織学習講師研修会 @ 仙台・宮城

9月1日・2日、全国から事務局長やボランティア学習講師が宮城に集まりました。ユニセフ活動を多くの人に広める役割を担っている全国の道府県協会のメンバーから、未曾有の被害を受けた被災地の空気を感じ、今後の活動に活かしたいという強い思いから、初の地方開催となりました。日本ユニセフ協会・宮城県ユニセフ協会・宮城支援室が協同して準備にあたりました。

1日目は、荒浜～閑上～仙台空港～亘理地区をバスで通り、ユニセフが支援している山元町の保育所3ヶ所で草刈りや側溝の泥上げなどのボランティアを行い、所長さんから子どもたちの様子や被害の状況をお聞きしました。津波が天井近くまで襲った保育所の内部を見て、みんな声を詰まらせてしまいました。

2日目は、茂庭荘にて開発教育協会（DEAR）と日本プレイセラピー協会から講師を招いての研修で、ひとりひとりのスキルアップにつながったことでしょう。



宮城からの参加者

Tegami Project 宮城 第2回は「モロッコ編」

9月8日、亘理町吉田保育所（74人）の年長組さんに、モロッコのお友だちからの「絵」を届けました。仙台在住のカサブランカ出身のアミンさんからモロッコのことを聞きました。子どもたちは、アラビア語の「アッサラームアレイクム」（こんにちは）や「ショ克蘭」（ありがとう）を学びました。クレヨンや折り紙を使って、お返事を書きました。



りがとう）を学びました。クレヨンや折り紙を使って、お返事を書きました。

子どもたちの3・11 ユニセフ東日本大震災報告写真展

9月5日～11日、東京国際フォーラムで開催。オープニングに参加しました。日本ユニセフ協会のほか、新聞通信社25社、写真家21名の迫力ある写真125点が展示されました。写真1枚1枚の向こうにあるそれぞれの大切な命と、被災を乗り越えて生きる人々の姿、そして復興への希望を感じとることができます。

今後は海外でも展示予定です

アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使のメッセージです。『一瞬にしてたくさんの尊い命、人々の生活が奪われました。しかし破壊された町の瓦礫の間にはたくさんの輝く命、溢れるやさしさ、限りない希望が生まれています。ユニセフも、日本ユニセフ協会を通じて、約50年ぶりに日本に支援してくれました。みんなと一緒に子どもたちを抱きしめて、より美しくより強い日本を再建するために、がんばっています。子どもたちの瞳に、その笑顔に、命のすばらしさを感じました。』

9月5日、オープニング参加のみやぎ生協学校部の小野常務（右）と石川次長



プレイセラピーでの発見！

言葉が未発達な子どもにとって、「遊び」は自己表現。遊びをじゃまされたり、指示されることは、大人にとって話しを遮られたりすることと同じ。心をケアする遊びでは、時には「こわいおもちゃ」も必要。助けてくれるヒーローになるかもしれません。



ユニセフ学習会 ～薬はどれかな？～ 登米市中田町社会福祉協議会の福祉講座「はじめてのユニセフ」毎年小学生対象に開催されている講座の1つにユニセフを取り上げています。言葉を使えないと人とのコミュニケーションがむずかしく、文字が読めないと「薬」と「毒」の区別ができません。その体験から、学校で学んだり、友だちと遊ぶことの大切さを実感してもらえたと思います。

विष औषधि

ネパールの文字： 毒 薬

